

平成24年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成23年11月1日

上場取引所 大

上場会社名 エヌアイシ・オートテック株式会社
 コード番号 5742 URL <http://www.nic-inc.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員管理部長

(氏名) 西川浩司
 (氏名) 藤井透

TEL 076-425-0738

四半期報告書提出予定日 平成23年11月7日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第2四半期の業績(平成23年4月1日～平成23年9月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第2四半期	3,149	124.5	172	—	174	—	100	—
23年3月期第2四半期	1,403	4.5	△95	—	△90	—	△56	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第2四半期	1,848.97	—
23年3月期第2四半期	△1,040.88	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年3月期第2四半期	5,981	2,923	48.9
23年3月期	5,495	2,886	52.5

(参考) 自己資本 24年3月期第2四半期 2,923百万円 23年3月期 2,886百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	0.00	—	800.00	800.00
24年3月期	—	0.00	—	—	—
24年3月期(予想)	—	—	—	800.00	800.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年3月期の業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,485	9.9	173	106.0	177	88.2	101	117.0	1,870.32

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

4. その他

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

24年3月期2Q	55,000 株	23年3月期	55,000 株
24年3月期2Q	511 株	23年3月期	511 株
24年3月期2Q	54,489 株	23年3月期2Q	54,489 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P2「経営成績に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する定性的情報	2
(2) 財政状態に関する定性的情報	3
(3) 業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報(その他)に関する事項	4
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期財務諸表	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	7
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 継続企業の前提に関する注記	9
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	9
4. 補足情報	10
(1) 生産、受注及び販売の状況	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する定性的情報

当第2四半期累計期間におけるわが国の経済は、本年3月11日に発生した東日本大震災の影響による直接的な経済被害はもとより、原発事故に伴う電力供給制限による経済活動全般にわたる停滞、さらには長引く円高の進行や欧州諸国の財政問題等を受け、先行きは依然として不透明な状況が続いております。

当社はこのような状況のもと、当社の主力製品である「アルファフレームシステム」の拡販ツールとして自社開発した世界初の3次元自動設計システム「カクチャ™」や、作業時間を大幅に削減可能とする組立省力化システム「マーキングシステム™」を活用し、新規顧客開拓を中心とした売上高の確保に向け、継続的に注力してまいりました。

また、長引く円高を背景に輸出関連の製造業が海外拠点での生産強化を図っており、この流れに沿って自動車部品製造関連企業向けの生産設備用自動化・省力化装置の受注を確保すべく、積極的な提案型営業活動を推進してまいりました。

これらの結果、当第2四半期累計期間の売上高は、3,149百万円（前年同期比124.5%増）となりました。利益面につきましては、営業利益は172百万円（前年同期は95百万円の営業損失）、経常利益は174百万円（前年同期は90百万円の経常損失）、四半期純利益は100百万円（前年同期は56百万円の四半期純損失）となりました。

当第2四半期累計期間における各セグメントの状況は、次のとおりであります。

[アルファフレーム部門]

アルファフレーム部門におきましては、引き続き「カクチャ™」及び「マーキングシステム™」の支援ソリューション提案活動を全国展開するとともに、当社の技術力を活かした設計最適化を提案することによる当部門の売上拡大を図っております。

当第2四半期累計期間におきましては、東日本大震災の影響等による市況の大きな変化にもかかわらず、多種多様な業界で利用されているという強みが活き、売上高は堅調に推移いたしました。なお、前年同期と比べ売上高の伸び率はそれほど大きくありませんが、競合他社による低価格販売に対抗する厳しい状況下での伸長であり、当社製品の品質やこれを裏付ける技術が顧客から高く評価された結果となっております。また、前事業年度より取り組んでおります高付加価値化を目指した開発設計も順調に進み、当社の「トータルソリューションがお客様の総合的なコストダウンを実現し、満足度を高める」というコンセプトを着実に具現化しております。

この結果、当部門の売上高は645百万円（前年同期比7.1%増）となりました。

[装置部門]

装置部門におきましては、継続的に受注を確保していた海外向けカスタムクリーンブースは、フラットパネルディスプレイ業界の不振から一服感が出ているものの、自動車部品製造企業の海外向け設備投資が活発化してきております。当部門は、複数の自動車部品製造企業より洗浄装置、搬送装置等を受注し、更に大型機械設備投資案件の受注も継続的に確保したことから、当第2四半期累計期間における売上高は前年同期と比べ大幅に伸長いたしました。なお、第3四半期以降に向けた継続的な引き合いも受けております。また、工作機械業界の復調に伴い、計画生産品の受注も伸長し、売上高増加に貢献しております。

この結果、当部門の売上高は1,989百万円（前年同期比327.2%増）となりました。

[商事部門]

商事部門におきましては、機械部品製造業界が好調なことにより、工業用砥石、油脂類、工具・ツール等の消耗品の受注が堅調に推移したことに加え、機械部品製造企業向けの機械設備案件の受注を確保したこともあり、売上高は伸長いたしました。

この結果、当部門の売上高は514百万円（前年同期比53.7%増）となりました。

(2) 財政状態に関する定性的情報

① 資産・負債・純資産の状況

当第2四半期会計期間末における総資産は、前事業年度末に比べ486百万円増加し5,981百万円となりました。これは主に、装置案件の売上が伸長したことにより、現金及び預金が378百万円、受取手形及び売掛金が115百万円、それぞれ増加したことなどによります。

負債は、前事業年度末に比べ449百万円増加し3,058百万円となりました。これは主に、装置案件の受注増にかかる仕入増加により、支払手形及び買掛金が314百万円増加したことや、未払法人税等が59百万円、未払消費税等が41百万円、それぞれ増加したことなどによります。

純資産は、前事業年度末に比べ36百万円増加し2,923百万円となりました。これは主に、四半期純利益の計上により、利益剰余金が57百万円増加した一方で、その他有価証券評価差額金が20百万円減少したことなどによります。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前事業年度末と比べ58百万円増加し、343百万円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、前年同四半期累計期間の109百万円のキャッシュ・アウトに対し、当四半期累計期間は444百万円のキャッシュ・インとなりました。これは、法人税等の還付額の減少による資金の減少額45百万円などの資金の減少があった一方で、税引前四半期純利益の計上による資金の増加額266百万円や、売上債権の増減による資金の増加額44百万円並びに、仕入債務の増減による資金の増加額141百万円などの資金の増加があったことが主な要因であります。

投資活動によるキャッシュ・フローは、前年同四半期累計期間の33百万円のキャッシュ・アウトに対し、当四半期累計期間は342百万円のキャッシュ・アウトとなりました。これは定期預金の預入による支出が316百万円増加したことが主な要因であります。

財務活動によるキャッシュ・フローは、前年同四半期累計期間の37百万円のキャッシュ・アウトに対し、当四半期累計期間は43百万円のキャッシュ・アウトとなり、いずれも配当金の支払いによるキャッシュ・アウトのみとなっております。

(3) 業績予想に関する定性的情報

業績予想につきましては、平成23年10月26日に「業績予想の修正に関するお知らせ」として、第2四半期累計期間及び通期業績予想数値の修正を公表いたしましたので、詳細はそちらをご参照ください。

※ 上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

2. サマリー情報(その他)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

① 簡便な会計処理

イ. 棚卸資産の評価方法

棚卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積り、簿価切下げを行う方法によっております。

ロ. 固定資産の減価償却費の算定方法

減価償却の方法として定率法を採用している固定資産の減価償却費については、事業年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

② 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項ありません。

3. 四半期財務諸表
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成23年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	288,885	667,883
受取手形及び売掛金	2,941,176	3,056,806
商品及び製品	134,704	128,600
仕掛品	141,208	155,512
原材料及び貯蔵品	229,950	240,850
その他	71,702	54,104
貸倒引当金	△266	△288
流動資産合計	3,807,360	4,303,469
固定資産		
有形固定資産		
建物	1,442,449	1,442,449
減価償却累計額	△847,052	△864,836
建物(純額)	595,396	577,612
土地	456,904	456,904
その他	589,782	602,819
減価償却累計額	△437,404	△434,747
その他(純額)	152,378	168,072
有形固定資産合計	1,204,680	1,202,589
無形固定資産	24,592	20,964
投資その他の資産		
その他	460,208	456,073
貸倒引当金	△1,500	△1,550
投資その他の資産合計	458,708	454,523
固定資産合計	1,687,980	1,678,077
資産合計	5,495,341	5,981,547
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,313,690	2,628,061
未払法人税等	9,201	68,534
製品保証引当金	5,281	20,080
賞与引当金	39,299	40,654
その他	83,677	112,645
流動負債合計	2,451,151	2,869,976
固定負債		
退職給付引当金	122,357	127,123
その他	35,463	61,195
固定負債合計	157,821	188,318
負債合計	2,608,972	3,058,294

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成23年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	156,100	156,100
資本剰余金	146,100	146,100
利益剰余金	2,560,960	2,618,118
自己株式	△34,410	△34,410
株主資本合計	2,828,749	2,885,907
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	57,618	37,344
評価・換算差額等合計	57,618	37,344
純資産合計	2,886,368	2,923,252
負債純資産合計	5,495,341	5,981,547

(2) 四半期損益計算書
第2四半期累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
売上高	1,403,080	3,149,320
売上原価	1,085,382	2,549,325
売上総利益	317,698	599,994
販売費及び一般管理費	412,719	427,538
営業利益又は営業損失(△)	△95,021	172,455
営業外収益		
仕入割引	1,730	1,119
未払配当金除斥益	—	842
還付加算金	1,389	60
助成金収入	522	—
その他	494	663
営業外収益合計	4,137	2,685
営業外費用		
手形売却損	—	143
その他	—	37
営業外費用合計	—	181
経常利益又は経常損失(△)	△90,884	174,960
特別利益		
受取保険金	—	4,387
特別利益合計	—	4,387
特別損失		
固定資産除却損	361	4,385
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	596	—
特別損失合計	958	4,385
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	△91,843	174,961
法人税、住民税及び事業税	1,282	66,093
法人税等調整額	△36,408	8,119
法人税等合計	△35,126	74,213
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△56,716	100,748

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失 (△)	△91,843	174,961
減価償却費	42,102	42,518
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	107	71
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△409	1,354
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	2,173	4,765
製品保証引当金の増減額 (△は減少)	△735	14,799
受取利息及び受取配当金	△94	△190
手形売却損	—	143
固定資産除却損	361	4,385
売上債権の増減額 (△は増加)	△160,235	△115,538
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△56,086	△19,100
仕入債務の増減額 (△は減少)	172,776	314,370
未払消費税等の増減額 (△は減少)	16,065	50,848
その他	△79,999	△21,982
小計	△155,816	451,409
利息及び配当金の受取額	94	112
手形売却に伴う支払額	—	△143
法人税等の支払額	△18	△6,616
法人税等の還付額	45,803	1
営業活動によるキャッシュ・フロー	△109,936	444,762
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△4,000	△320,000
有形固定資産の取得による支出	△15,724	△5,233
無形固定資産の取得による支出	—	△3,316
投資有価証券の取得による支出	△2,400	△2,400
保険積立金の積立による支出	△11,508	△11,508
その他	△71	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△33,704	△342,459
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△37,854	△43,304
財務活動によるキャッシュ・フロー	△37,854	△43,304
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	0
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△181,495	58,998
現金及び現金同等物の期首残高	573,586	284,885
現金及び現金同等物の四半期末残高	392,091	343,883

(4) 継続企業の前提に関する注記

当第2四半期累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当第2四半期累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)

該当事項はありません。

4. 補足情報

(1) 生産、受注及び販売の状況

① 生産実績

当第2四半期累計期間における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメント名称	生産高(千円)	前年同四半期比(%)
アルファフレーム部門	652,001	107.1
装置部門	1,989,167	427.2
合計	2,641,168	245.8

(注) 上記の金額は販売価格で表示しており、消費税等は含まれておりません。

② 商品仕入実績

当第2四半期累計期間における商品仕入実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメント名称	品目	仕入高(千円)	前年同四半期比(%)
商事部門	工業用砥石	83,015	108.6
	機械設備	96,197	2,319.4
	工具・ツール・油脂類	260,556	126.4
合計		439,769	153.4

(注) 上記の金額は、仕入価格で表示しており、消費税等は含まれておりません。

③ 受注実績

当第2四半期累計期間における受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメント名称	受注高(千円)	前年同四半期比(%)	受注残高(千円)	前年同四半期比(%)
アルファフレーム部門	652,219	106.5	41,376	141.8
装置部門	2,289,128	278.1	1,136,628	224.9
商事部門	555,711	136.7	156,497	151.7
合計	3,497,059	189.8	1,334,502	209.3

(注) 上記の金額は販売価格で表示しており、消費税等は含まれておりません。

④ 販売実績

当第2四半期累計期間における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメント名称	販売高(千円)	前年同四半期比(%)
アルファフレーム部門	645,450	107.1
装置部門	1,989,167	427.2
商事部門	514,701	153.7
合計	3,149,320	224.5

(注) 1 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合

相手先	当第2四半期累計期間		
	販売高(千円)	割合(%)	前年同四半期比(%)
株式会社ホンダトレーディング	1,368,757	43.5	108,631.5

2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。